

2, 3種の保持薬が発売され又厚生省でも其の使用法に依り無害許可されています。

本所でも未だ予備試験の域ではあるが、其の薬品の効果に就いても比較調査を試み、少量ながら実施することにした。

有用介藻類、刺皮動物の資源調査

琉球近海に於ける有用介藻類及び刺皮動物の産息状況を調査して将来これ等の利用開発の資料に供せんがために、前年度より継続事業として実施した。

1. 具志川村、仲里村沿岸

調査場所及び期間

場 所 嘉手苅地先、烏島地先、後間地先、荒浜地先

期 間 1958年6月8日～6月14日 7日間

調査方法 現場踏査、刺舟、漁民より聴取

2. 生産調査

種 類	盛 産 期	年間生産高 及 統 数	利用価値の調査	備 考
高浜貝、夜光貝 広瀬貝、玉貝	5月～8月頃	現在刺舟 1隻1日200斤位	貝肉は自家消費 貝殻は販売	
海人草	7月～8月頃	年 間 生 4000斤位	島内需要	
ひとえくさ	1月～4月頃	不 明	乾燥販売	
も づ く	3月～5月頃	4500斤程度	利用者なし	
ばみんろに	7月～9月頃	不 明	肥料程度	
なまこ	周年	3500斤位	、	

3. 調査地区内に於ける水産加工業者の有無

琉球太もづく、昭和15年頃静岡県人吉岡氏が塩蔵もづくとして、日本向け輸出したが現在は皆無。

4. 調査経過

(1) うに資源について

うに類の分布は具志川村地先から仲里村地先リーフ帯に群棲しているが身入状態が悪く成熟期は7月～9月頃と思考される。地元漁者はこれか利用面に無関心で殆んど肥料として使用している。